

普及事業 広報

主な広報活動は以下の通り

1) 広報誌「写真美術館ニュースeyes (アイズ)」発行 (vol.42～vol.45)

平成15年度にマイナーリニューアルした内容をさらに充実。より効果的な告知を考え、発行のタイミングを従来よりやや早めた(展覧会開催の約3ヶ月前)。展覧会関連書籍やイベントなど、展覧会以外の多彩な内容も盛り込んだ。

【参照資料1：ニュース42～45号表紙】

2) ホームページの活用

平均アクセスは41万超PVと15年度を約25%上回り、最高で53万超PV(17年3月)、最少でも35万超PV(16年4月)と安定したアクセスを確保した。展覧会情報のほか、作家のインタビュー映像や公募展作品募集など幅広いコンテンツの提供を心がけた。ワークショップの申し込み数も増加し、ホームページはより多様に活用されている。

3) プレスリリース作成・発送およびプレス取材対応

見やすくわかりやすい内容と書式を心がけ、ターゲット媒体を想定した効果的なリリース発信をおこなった(各回約500件)。また、電話・FAX・メールでの記事掲載対応の他、取材依頼、撮影・収録・オンエアーの立ち会いなどを行った。

4) チラシ・ポスターの配架

マスコミ、美術館、写真、教育関係など各所にチラシ・ポスター等の掲出物を送付、配架を依頼した。

5) 懸垂幕、壁面スペースへの掲出

JR恵比寿駅側壁面の懸垂幕、壁面スペースへの掲出や、ガーデンタワー側の巨大写真掲出および縦位置壁面スペース(3枚)の利用で、当館の活動やイメージを発信した。

6) 有料広告スペースへの掲出

首都圏のJR・地下鉄の窓上広告、ガーデンプレイススカイウォーク入り口電飾広告などにポスターを提出した。

7) 記者懇談会・記者会見の実施

・記者懇談会「平成15年度活動報告及び平成16年度事業計画」
恒例となった年1回開催の記者懇談

平成16年4月23日(金) 13:30～15:00

於：4階会議室

・マリオ・テストイーノ写真展「ポートレート」記者会見

出品作家であるマリオ・テストイーノ氏を迎えて記者会見を行なった。

平成16年10月15日(金) 14:00

於：2階展示室内

・開館10周年記者会見「写真はものの見方をどのように変えてきたか」展の記者発表。出品予定の収蔵作品をアトリエにて実見。展覧会の主旨を訴求した。

平成17年1月12日(水) 14:00～15:30

於：4階会議室・1階アトリエ

【資料参照2：開館10周年記者会見風景】

8) プレス向けギャラリーツアーの実施

主要収蔵展および自主企画展について、特別鑑賞会と同日に、プレス向けギャラリーツアーを開催。作家が現存の場合は、作家自身による展覧会説明も積極的に開催した。

【資料参照3：平成16年12月24日「新花論」ギャラリーツアー風景】

9) PRイベントの実施

①「明日を夢見て～アメリカ社会を動かしたソーシャル・ドキュメンタリー」関連PR公募展「写真のチカラ。」

応募内容：学校生活のドキュメンタリー写真をテーマに、高校生を対象に作品を募集をした。

応募総数：全国36校から計342作品

展示期間：平成16年11月27日～平成17年1月16日

於：2階展示室前ロビー

【資料参照4：写真のチカラ展示風景】

②日本の新進作家「新花論」関連PR「写真が満開！フォト・ガーデン」

応募内容：「わたしの花」をテーマに写真を募集。お客様が会に作品を持参し、自身で展示した。

展示期間：平成16年12月25日～平成17年2月6日

於：3階展示室前

【資料参照5：フォト・ガーデン展示風景】

10) ゴールデンウィークおよび年始特別開館

ゴールデンウィーク(平成16年5月1日～5日)は、スタンプラリーやプレゼント、ヘブンアーティストなど、ご来館のお客様に向けたイベントを多数用意し、5日間で13,553人を動員した。正月特別開館(平成17年1月2日～4日)は「あけまして、写美の10周年」を全面に出し、開館10周年をアピールした。

【資料参照6：館壁面を利用した開館10周年告知】



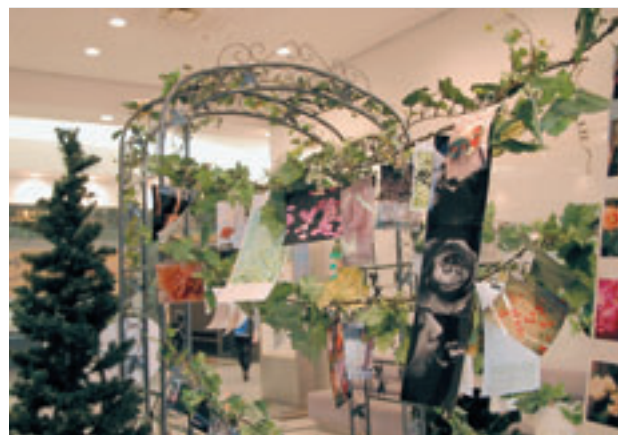
参照資料1：東京都写真美術館ニュース「eyes」



参照資料2：開館10周年記者会見風景



参照資料3：「新花論」ギャラリーツアー風景



参照資料5：フォト・ガーデン展示風景



参照資料4：写真のチカラ展示風景



参照資料6：館壁面を利用した開館10周年告知

文化施設連携構想

あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿

1 趣旨

- (1) 渋谷を中心としたJR3駅（渋谷、恵比寿、原宿）を結びエリアには美術館、博物館、コンサートホール、テーマパーク等多くの文化施設が存在しており、それぞれの特徴を活かしながら多様な文化事業が展開されている。
- (2) こうした文化施設が連携することは有意義なことであり、まず、東京都写真美術館、NHK、東急文化村が新たな連携を実施しつつ、このエリア内に存在する文化施設との連携を拡充しながら従来にも増して、魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め利用者の増加を図る。
- (3) このエリアの文化施設が相乗効果を発揮し、文化芸術に触れる場や機会の提供を拡充することにより、人々の生活の中に文化が浸透し、ひいては社会に活力を与える一助になることを目的とする。



2 連携施設

- (1) 発起人である東京都写真美術館、NHK、東急文化村が連携して平成16年9月に記者発表を行い、広くアピールした。
- (2) その後も発起人が協力し、このエリアに存在する他の文化施設に連携を呼びかけた。

3 実績

- (1) 広報宣伝
 - ① エリア内連携施設の場所、アクセス方法周知した広報用チラシを発行した。
 - ② 11月3日・4日に渋谷区「ふるさと渋谷フェスティバル」に参加し、広報用チラシを配布してPRするとともに、各施設事業の情報提供を行った。
- (2) 共通事業
 - ① 東京都写真美術館、NHK、Bunkamuraの共通割引券を発行し、PRを行った。
 - ② スタンプラリーの実施
 - ・ NHKスタジオパーク、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童館、こどもの城、UNギャラリーで実施した。
 - ・ Bunkamura、松濤美術館、戸栗美術館、ギャラリーTOMで実施した。
- (3) バックステージガイドツアー、トークショーを3施設で同時期に開催した。

ふるさと渋谷フェスティバル

開催日：2004年11月3日(祝・水)～4日(木)

場所：代々木公園（渋谷区）

「あ・ら・かるちゃー」もブースを出して渋谷・恵比寿・原宿地区の文化活動をアピール。たくさんのお客様にお立ち寄りいただきました。



<参考>

- 平成16年9月 ・あ・ら・かるちゃー発足、発表
10月 ・ 広報事業、共通事業の開始
・ バックステージツアー、トークショー3施設で実施
・ エリア内施設参加呼びかけ
11月 ・ 「渋谷区くみんの広場」に参加
平成17年1月 ・ 協議会の考え方整理
各館へ通知
2月 ・ 協議会準備会

普及事業

スクールプログラム

学校児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習ができるように、小学校・中学校・高等学校の授業とリンクした「スクールプログラム」を実施している。

利用を希望する学校を対象に、収蔵作品を活用した鑑賞プログラム、暗室や写真映像機材を活用した実技的な体験プログラムを、それぞれの学校側の要望に合わせたオーダーメイドの形式で行った。

実施回数：38回

実施校：主に都内小中高25校 および教職員研修会1件



平成16年度 スクールプログラム実績

	年月日		時間	団体名	学年	人数	備考
1	H15.4.22	(木)	10:00-11:00	山形県寒河江市立陝西中学校	2年	6名	映像体験プログラム
2	H16.5.12, 14	(水)(金)	14:00-15:30	資生堂学園資生堂美容技術専門学校	1年	45名	ロバート・キャバ展 レクチャー
3	H16.5.12	(水)	14:30-15:30	東京都国際高等学校	2-3年	11名	ロバート・キャバ展 レクチャー
4	H16.5.19	(水)	10:00-12:00	愛知県岩倉市立岩倉中学校	3年	9名	映像体験プログラム
5	H16.5.25	(火)	10:45-12:15	港区立東町小学校#1	6年	24名	年間連携授業(出前授業) ポートレイト写真撮影
6	H16.5.26, 27	(水)(木)	11:00-15:30	レコール・ヴァンタン	1年	105名	展覧会レクチャー
7	H16.6.8	(火)	13:00-15:00	愛知県愛知郡東郷町立東郷中学校	3年	5名	「カメラの仕組みを学ぼう」、展覧会レクチャー
8	H16.6.10	(木)	14:20-15:30	東京都立小石川高等学校	3年	14名	驚き盤、クレイアニメ制作
9	H16.6.25	(金)	10:00-11:40	港区立高輪台小学校	3年	42名	奈良原一高展 鑑賞、驚き盤制作
10	H16.6.29	(火)	10:00-11:40	大田区立東調布第3小学校	6年	60名	奈良原一高展 鑑賞、驚き盤制作
11	H16.6.29	(火)	13:00-15:00	千葉大学教育学部附属中学校	1-3年	30名	奈良原一高展 世界報道写真展 レクチャー
12	H16.7.7	(水)	9:30-11:30	港区立東町小学校#2	6年	24名	年間連携授業、暗室体験プログラム(BWプリント制作)
13	H16.7.14	(水)	14:30-16:20	立教女学院小学校	4-6年	9名	暗室体験プログラム(フォトグラム制作)
14	H16.7.15	(火)	10:00-12:00 13:00-15:00	聖ドミニコ学園高等学校	1年	82名	世界報道写真展レクチャー
15	H16.7.21	(水)	11:00-15:00	武蔵野市立第5中学校	1-3年	20名	世界報道写真展、世界は歪んでいる。展レクチャー
16	H16.7.27	(火)	10:00-12:00	東京都立世田谷泉高等学校	写真部	6名	世界報道写真展、世界は歪んでいる。展レクチャー
17	H16.7.29	(木)	9:30-12:00	東京都図工研究会(都図研)	図工教員	70名	クレイアニメ、フォトグラム制作 展覧会鑑賞
18	H16.8.11	(水)	14:30-16:30	静岡県立商業高校美術部	高1	21名	驚き盤、クレイアニメ制作
19	H16.9.14	(火)	10:00-11:30	港区立東町小学校#3	6年	24名	年間連携授業 EIICHIRO SAKATA展作家トーク
20	H16.9.16	(木)	10:00-12:00	香蘭女子短期大学	1年	32名	驚き盤制作
21	H16.10.6,7	(木)(金)	8:40-10:30	吉祥女子高等学校#1	1年	70名	出前授業、モノクロフィルムでの写真撮影
22	H16.10.19	(火)	10:40-12:15	港区立東町小学校#4	6年	24名	年間連携授業(出前授業)、モノクロフィルムでの写真撮影
23	H16.10.22	(金)	11:00-15:00	都立八王子工業高等学校	1年	70名	「カメラの仕組みを学ぼう」、展覧会レクチャー
24	H16.10.26	(火)	14:00-15:00	東京大学教育学部附属中等教育学校	中3 高1	14名	収蔵品レクチャー
25	H16.10.27,28	(水)(木)	8:40-10:30	吉祥女子高等学校#2	1年	70名	出前授業 生徒による課題発表
26	H16.11.9	(火)	10:00-15:00	東大和市立第3中学校	2年	30名	収蔵品レクチャー
27	H16.11.9	(火)	10:45-12:20	北区立西ヶ原小学校	5年	36名	出前授業、暗室体験(デジタルネガ密着焼き付け)
28	H16.11.20	(土)	10:00-12:00	筑波大学附属駒場中・高等学校	中3	3名	暗室体験プログラム(BWプリント制作)
29	H16.11.24	(水)	14:30-16:30	東京都国際高等学校#2	2-3年	8名	暗室体験プログラム(BWプリント制作)
30	H16.12.2	(木)	14:30-16:30	東京農業大学第一高等学校	3年	18名	暗室体験プログラム(BWプリント制作)
31	H16.12.16	(木)	14:00-16:00	武蔵野市立第5中学校#2	2-3年	15名	クレイアニメ制作
32	H17.1.13	(木)	10:40-15:10	大田区立入新井第4小学校#1	5年	64名	出前授業、写真撮影 レクチャー
33	H17.1.20	(木)	9:20-12:00	港区立東町小学校#5	6年	24名	年間連携授業 暗室体験プログラム(BWプリント制作)
34	H17.1.28	(金)	9:30-15:00	京都市立銅駝美術工芸高等学校	1年	111名	「カメラの仕組みを学ぼう」、新花論展レクチャー
35	H17.2.1	(火)	9:30-13:00	大田区立入新井第4小学校#2	5年	32名	暗室体験プログラム(BWプリント制作)、美術館バックヤード見学
36	H17.2.3	(木)	9:30-13:00	大田区立入新井第4小学校#3	5年	32名	暗室体験プログラム(BWプリント制作)、美術館バックヤード見学
37	H17.2.10	(木)	11:00-12:00	港区立神応小学校	4年	18名	驚き盤制作
38	H17.3.8	(火)	1:30-15:00	港区立東町小学校#6	6年	24名	年間連携授業(出前授業) 生徒作品の発表会

平成16年度 スクールプログラム実施内容例

港区立東町小学校 スクールプログラム

対象：6年生 24人

内容：図画工作科から発展した総合的な学習「一年間の連携授業
出会う 対話する 見つめる」

港区立東町小学校の6年生24名と東京都写真美術館の長期にわたる
連携授業。この授業では、一年間を通じ、写真という表現手段を媒
介にして、生徒が多くの人々と出会い、対話しながら自分を見つめ、
撮影・プリントしたモノクロ写真作品を発表する活動を行った。

第1回（平成16年5月25日）

出前授業「ポートレート写真」

（場所：港区立東町小学校）

当館ボランティアスタッフと学芸員が学校を訪問し、学校生活の中
で、生徒24名一人一人のポートレート写真を撮影した。

第2回（平成16年7月7日）

「モノクロ写真の暗室プリント」

（場所：東京都写真美術館）

暗室でのモノクロプリント体験。前回撮影したポートレート写真を、
被写体となった生徒それぞれが、プリント制作した。

第3回（平成16年9月14日）

「PIERCING THE SKY EICHIRO SAKATA展の

鑑賞と作家によるトーク」

（場所：東京都写真美術館）

当館で開催の「PIERCING THE SKY EICHIRO SAKATA展」を鑑
賞し、作家本人によるトーク。写真作家と出会い、その表現に触れ
る機会となった。

第4回（平成16年10月19日）

出前授業「自分の視点で写真を撮ろう」

（場所：港区立東町小学校）

生徒それぞれが1台ずつコンパクトカメラを持ち、撮影するにあ
たって、カメラの使い方や注意点を説明。「自分の視点」についてのサ
ンプルとなるよう、学芸員とボランティアスタッフ7名が日常の中で
撮影した組写真を発表した。

第5回（平成17年1月20日）

「自分が撮影した写真を暗室プリント」

（場所：東京都写真美術館）

生徒が撮影し、選んだカットをそれぞれが暗室プリント制作し、モ
ノクロ写真作品を制作した。

第6回（平成17年3月8日）

「発表会 一年を通しての連携授業」

（場所：港区立東町小学校）

連携授業を通して出来上がった写真を一人一枚のパネルに組写真と
してまとめ、生徒が自分の言葉で発表を行った。

一年間の活動のまとめ。



普及事業

ワークショップ

当館では、写真と映像の二つの専門分野を総合的に扱う美術館として、広く都民一般を対象に、入門的または専門的な関心を深めるためのワークショップを開館以来実施している。人々が写真、または新旧の映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することで、当館が生涯学習の場として機能することを目指している。

セミナーワークショップ

当館で開催した展覧会と連動して、出品作家やゲスト・キュレーターのレクチャー、ギャラリートークといったプログラムを実施した。

奈良原一高 [時空の鏡：シンクロシティ]展 ギャラリートーク

Aコース 平成16年6月12日

Bコース 平成16年7月3日

講師：奈良原一高（写真家）

参加人数：Aコース23名 Bコース21名

参加費 700円（展覧会チケット代込み）

世界は歪んでいる。Supernatural Artificial展

セミナーワークショップ

平成16年7月17日

講師：ナタリー・キング（ゲスト・キュレーター）、アン・ザハルカ（出品作家）、ダレン・シルヴェスタ（出品作家）、サイモン・トレヴァックス（出品作家）

参加人数：23名

参加費 1,000円（展覧会チケット代込み）

PIERCING THE SKY EIICHIRO SAKATA展

セミナーワークショップ

平成16年10月7日

講師：坂田栄一郎（写真家）

参加人数：21名

参加費 1,500円（展覧会チケット代込み）



「日本の新進作家 vol.3新花論」展 セミナーワークショップ

Aコース 平成17年1月29日 Bコース 平成17年1月30日

講師：Aコース 鬼頭健吾（出品作家）、銅金裕司（出品作家）

Bコース 赤崎みま（出品作家）、檀田珠実（出品作家）

参加人数：Aコース 17名、Bコース 28名

参加費 1,500円（展覧会チケット代、展覧会カタログ代込み）



実技系ワークショップ

参加者が実技的体験を通して、写真、映像メディアへの興味を深めるきっかけとするプログラム。アトリエの暗室を活用した写真プリント実技、写真古典技法を通年で実施した。

B&Wワークショップ（春期）

A,Bコース：平成16年5月1日

C,Dコース：平成16年5月2日

講師：日向雄一郎（写真家/いけばな作家）

参加人数：Aコース10名 Bコース11名

Cコース11名 Dコース10名

参加費：一般 3,000円 高校生以下2,000円

カラープリント・ワークショップ

A,Bコース（初級）：平成16年5月29日
C,Dコース（中級）：平成16年6月5日
講師：初級コース 写真美術館スタッフ
中級コース 江森康之（写真家）
参加人数：Aコース10名 Bコース11名 Cコース8名
Dコース10名
参加費：一般 3,000円 高校生以下2,000円



古典技法ワークショップ

コロジオン・プロセス
ガラス湿板原板と鶏卵紙
Aコース：平成16年12月11日・12月18日
Bコース：平成16年12月12日・12月19日
講師：平野武利（古典技法研究者）
荒井宏子（前・東京都写真美術館 保存科学専門員）
Aコース14名 Bコース13名
参加費：一般 3,000円 高校生以下2,000円



B&Wワークショップ（秋期）

友の会会員限定コース：平成16年10月24日
A,Bコース：平成16年10月30日
C,Dコース：平成16年10月31日
参加人数：友の会会員限定コース21名
Aコース9名 Bコース9名
Cコース10名 Dコース9名
参加費：一般 3,000円 高校生以下2,000円



BW・カラープリント・ワークショップ

A,Bコース：平成17年2月19日・2月26日
C,Dコース：平成17年2月20日・2月27日
参加人数：Aコース10名 Bコース9名
Cコース8名 Dコース11名
参加費：一般 5,000円 高校生以下3,000円

カフェ・トーク

当館2階カフェ・シャンブルクレールを会場とするドリンク付きのトークシリーズを開催した。

「明日を夢見て」展関連カフェ・トーク 『アメリカン・ルーツミュージック探訪』

Aコース：平成17年1月8日（土）
「1920年代から30年代まで」
Bコース：平成17年1月15日（土）
「1940年代から60年代初頭まで」
講師：ピーター・バラカン（ブロードキャスター）
参加人数：Aコース26名 Bコース27名
参加費：1,500円（ドリンク、展覧会チケット付き）



子ども／親子ワークショップ

一般募集した小学生や親子が写真・映像メディアについて楽しみながら学ぶための体験的なプログラムを実施した。

光の魔術 フォトグラムをつくる

A,Bコース：平成16年7月24日
C,Dコース：平成16年7月25日
参加人数：Aコース14名 Bコース17名
Cコース10名 Dコース11名
参加対象：親子
参加費：一人300円

デジタルカメラで工作ワークショップ

動く写真と仕組み（夏期）

Aコース 平成16年8月21日 Bコース 平成16年8月22日
協力：キヤノン株式会社
参加人数：Aコース8名 Bコース7名
参加対象：小学3年—6年生まで
参加費：1,000円

デジタルカメラで工作ワークショップ

動く写真と仕組み（春期）

Aコース 平成17年3月26日 Bコース 平成17年3月27日
参加人数：Aコース6名 Bコース5名
参加対象：小学3年—6年生まで
参加費：1,000円



写真美術館ガイドツアー

ご来館のお客様を対象に、美術館の施設に親しむとともに当館への理解を深めてもらうことを目的に、バックヤードを含めた美術館施設を解説つきで見学し、楽しみ方を紹介するツアーを実施した。

平成16年7月31日、8月1日 各日3回 計6回実施
参加人数：60名
参加費：無料

普及事業

友の会／ボランティア／博物館実習

東京都写真美術館友の会

東京都写真美術館友の会は、写真と映像の鑑賞を通して当館に対する理解と親愛感を深め、美術館の運営を支援することを目的として平成13年7月に設置された。来館者数の増加に伴って毎年度、会員数を増やし、平成16年度3月末で昨年同月比約400人増の1441人となった。

本年度は、カフェとミュージアムショップのリニューアルを受けて、4月より下記の会員特典を提供した。加えて、10月に友の会会員優先にBWプリントのワークショップを開催した。触れる機会の少ない写真のプリント作業を身近に感じる機会を提供でき、参加会員に大変好評を博した。また、昨年度まで有効期限を過ぎてから更新を受け付けていたが、有効期限月の3ヶ月前から更新入会を受け付けることになり、より継続利用しやすくなった。

■**現会員数** 1,441人 (平成16年3月末)

■**会員種別**

- ・個人会員 2,000円
- ・家族会員 3,000円
- ・シルバー会員 1,000円

■**会員特典** (本年度の会員特典は以下の通り)

1. 収蔵展・映像展観覧料が無料
2. 共催展・自主企画展観覧料が割引
3. ミュージアムショップでのお買い物が5%引き
4. カフェでのブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き
5. 一階ホール(実験劇場)の割引
6. 写美ニュース「EYES」の送付

東京都写真美術館ボランティア

ボランティア制度導入から4年目となる平成16年度は、スクールプログラム実施校の増加、プリントワークショップのコース数増加など教育普及事業の拡大に伴って、ボランティアをお願いする事業数が増えた。ボランティアスタッフの活動がこれらの事業実施を支えている状況である。

■**登録者総数**：42人

平成15年度からの更新登録者：24人

新規登録者：18人

■**平成16年度応募者数**：88人

■**活動実績**：ボランティア活用事業実施回数 56回
延べ参加者288人(ただし研修会をのぞく)
年間一人あたり 平均6.86回

(参考：15年度のボランティア活用事業実施回数
31回、延べ132人が参加。年間一人あたり平均
4.13回)

■**ボランティア研修会** 5回

- ・**基礎研修/モノクロプリント** <平成16年4月24日>
参加ボランティア数 16人
- ・**カラープリント**<平成16年5月15日>
参加ボランティア数 20人
- ・**子どもワークショップ研修**<平成16年6月19日・20日>
参加ボランティア数 10人
- ・**古典技法研修**(コロジオン湿式原板とアルビューメン・プリント)<平成16年11月27日・28日>
参加ボランティア数16人
- ・**ボランティア懇談会**<平成17年2月26日>
参加ボランティア数18人

・**ワークショップのサポートスタッフ**

14事業 延べ32回活動

・**スクールプログラムのサポートスタッフ**

17事業(17校) 延べ23回活動

・**その他**

3事業 スクールプログラム発送補助、驚き盤オープンワークショップ(あ・ら・かるちゃー関連渋谷NHK前にて出前活動)、特別鑑賞会発送(「明日を夢見て」展)

博物館実習

当館における美術館活動と学芸員および各部署の業務を総括的に把握し、実地で研修することによって、学芸員養成のための実習とした。平成16年度の実習は各大学から書類選考をへた12名を受け入れ、日程をA日程、B日程に分けた。親子ワークショップの実技サポートスタッフとしての活動(A日程)と、美術館ガイドツアーのサポートスタッフとしての活動(B日程)を行った。共通の講義として概論、作品収集管理業務、展覧会業務、教育普及業務、保存業務などを行い、計12日間にわたって実習を行った。

受入日程：平成16年7月21日～8月4日のうち12日間

受入人数：12名

受入大学：京都造形芸術大学、埼玉大学、駿河台大学、東京家政大学、東京工芸大学、東京造形大学、日本大学、明治学院大学、立命館大学、和光大学(10校)

ショップ／カフェ

●ミュージアムショップ

ご来館の全てのお客様がミュージアムショップを利用できるように1階エントランスに設置している。平成16年4月より新たに、株式会社ニューアートディフュージョンへの運営委託により「NADIFF×10（ナディッフバイテン）」となってニューオープンした。カフェと直接行き来出来る通路をつくり、より気軽に利用出来る明るいショップとなった。また、いっそう商品の幅も広がりサービスも充実し、利用者、売上げ共に昨年と比べてほぼ倍増した。ショップ独自のサービスとして以下のことが挙げられる。

- ・各展覧会・映画にあわせた書籍・雑貨・DVDなどの幅広い商品展開、およびオリジナルグッズ開発（※1）を積極的に行っている。
- ・ファインアートに強く、他美術館にも交流が深いナディッフ系列の他店舗との連携が可能のため、他館の展覧会図録の充実を図るなど、写真はもとより美術史全体を網羅した商品展開を行っている。
- ・書籍は一般の書籍流通にのらない自費出版の写真集や貴重な古書など、一般書店では手に入りにくい写真集も充実している。
- ・雑貨は日本有数の品揃えとあっていいトイカメラ、フェナキスタスコープなどの見て触って楽しめるオプティカルトイが充実している。

■オリジナルグッズ開発（※1）

- ・定番商品
Tシャツ（2種）／エプロン
- ・奈良原一高展関連商品
ポストカード（12種）、ピンズ、マグネット
- ・EIICHIRO SAKATA展関連商品
ポストカード（8種）



■好評な商品

「マリオ・テスティエノ写真展」写真カタログ／「藤城清治の世界展」関連グッズ（クリアファイル、ポストカード）／トイカメラ（特にHOLGA、BabyHOLGA等）／3Dブックマーク／クラッシュドカップ／ドラゴンフライ（複眼鏡）／MoMAクリスマスカード／デザインハウス ストックホルムマフラー／エンドレスバッグ／ポストカード

●カフェ

展覧会観賞後の憩いの場として、語らいのひとときを提供すべく、平成16年4月、2階の吹き抜けエントランスロビーにオープン・カフェを新設した。また、1階カフェも、ミュージアム・ショップから直接行き来できるように、リニューアルし、カフェ「シャンブル・クレール」をオープンした。

店名はフランス語で「明るい部屋」。フランスの思想家ロラン・バルトの著書名から引用したもので暗室に対比した命名である。1階は、モダンジャズをBGMにゆったりとくつろげる大人のカフェ。それに対し、2階の吹き抜けエントランスロビーのテラス席は、開放感があり、色とりどりの椅子の配置は、お花畑を思わせる。

メニューは、オーダーごとにネル・ドリップでいれるコーヒーが美味であり、また13種類ものベルギービールが揃い、しゃれたつまみもそろっている。

1階カフェは、日曜日を除き、夜8時まで営業を行う。

2階カフェは、展覧会と連携したカフェ・トークなどのイベントを実施する場としても活用している。



実験劇場

● 設立の趣旨

当館の新しいあり方を工夫するとともに、館の活性化を図るための試みとして、平成12年度から将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品から、写真美術館にふさわしい映画を他に先駆けて1階ホールで上映している。

写真美術館で観る映画シリーズVol.10 「少女ヘジャル」

(平成16年6月12日～7月16日の30日間)

入場者数 5,458名

トルコでは人口の4人に1人以上のクルド人が住んでいるが共和国建国（1923年）から1991年に至るまで、クルド人の母国語であるクルド語を使うことが禁じられていた。両親を殺されたクルド人ヘジャルと言葉が通じないトルコ人の老人との心のふれあいを描く。クルド人問題を封じ込めていたトルコの衝撃作品。



写真美術館で観る映画シリーズVol.9 「アフガン零年」

(平成16年4月1日～6月11日の63日間)

入場者数 12,071名

主人公は12歳の少女。女性の一人歩きを禁じられ生活の糧を失った家族が少女の髪を切り、男の子に変装しなくては生きていけないタリバン政権の抑圧の状況を訴える作品。



写真美術館で観る映画シリーズ特別編 「ワー！マイキー リターンズ」

(平成16年7月17日～8月27日の36日間)

入場者数 12,468名

マネキンブームの火付け役となったマネキンドラマ「オー！マイキー」を、ファミリーで楽しめる夏のイベントとして一昨年、昨年に引き続き上映。未公開作品ばかりを集めたオール新作60分。



「東京アニメアワードフィルムフェスティバル」

(平成16年8月28日～8月31日の3日間)

入場者数 839名

東京国際アニメフェア2004で180本を超える公募作品の中から各賞に輝いたクリエイターの作品を無料上映。



写真美術館で観る映画シリーズVol.11

「雲—息子への手紙—」

(平成16年9月11日～10月22日の36日間)

入場者数 4,461名

[雲]に魅せられた女性監督が世界各地を旅しながら「雲」と美しいだけではないありのままの自然の姿を力強く描いたドキュメンタリー。冒険家でもある監督が旅の途中で息子を妊娠、出産、離婚、さらには息子が成長していく過程を、最愛の息子に宛てた母親からの手紙（朗読）という形で表現した“こころ”の旅の物語。



「ウィリアム・クライン『KLEIN+FILMS』映画祭」

(平成16年9月4日～9月10日・10月6日の7日間)

入場者数 739名

ウィリアム・クライン『PARIS+KLEIN』写真展にあわせ、写真家ウィリアム・クラインが制作した映画の上映会。日本未公開作品3作品の特別上映会を含む8作品を上映。



「ショート・ショート・フィルムフェスティバル・アジア2004」

(平成16年10月29日～10月31日の3日間)

入場者数 1,024名

アジア発の新しい映像文化の発信、新進若手映像作家の育成、映像を通じた国際的な芸術・文化交流の振興を目的として立ち上がった東京都共催の映画祭。アジア16カ国や欧米在住のアジア人フィルムメーカーからの応募のあった作品の中から受賞作品や特別招待作品を上映。



写真美術館で観る映画シリーズVol.12

「オランダの光」

(平成16年11月3日～12月17日の39日間)

入場者数 6,678名

17世紀のオランダ絵画の巨匠たちが遺した傑作の源となった独特の陰影を持つ自然光は「オランダの光」と言われていたが、20世紀前半にはその光が失われてしまったと指摘された。果たして「オランダの光」は本当に失われてしまったのか。あらゆる角度から「光」の謎を明かしていくドキュメンタリー作品。



チャリティ上映会

「掘るまいか 手掘り中山隧道の記録」

(平成16年12月28日) 入場者数 305名

新潟県中越地震で被災した山古志村を支援するためのチャリティ上映会。豪雪の山村新潟県山古志村は冬場に安全に通れる道路がなく、同村小松倉地区の住民が一念発起し、戦時中をはさみ16年かけて山を掘り抜き日本最長の約900メートルの手掘りトンネルを完成させた。開通までの軌跡を追ったドキュメンタリー映画。

(「掘るまいか」とは「よし、掘ろうではないか」の意味)



「イタリア・アニメーション映画祭」

(平成16年12月18日～12月26日の8日間)

入場者数 1,407名

人の手で1コマ1コマずつ創り上げられた“人の息づかいが聞こえてくる”エンタテインメントが、イタリアアニメーション。ラテンのぬけるような青空を想像させる陽気でちょっとシニカルなものから、イタリアならではの色づかいでどこまでもアートなものまで約100作品を上映。



写真美術館で観る映画シリーズVol.13

「ネオ・ファンタジア」

(平成17年1月2日～1月28日の24日間)

入場者数 2,215名

イタリアの巨匠、ブルーノ・ボツェット監督による伝説のミュージカルアニメーション。ボツェット監督の映像とカラヤンの音楽の、魅惑のコラボレーション作品。



写真美術館で観る映画シリーズVol.14

「サンサーラ」

(平成16年1月29日～2月20日の20日間)

入場者数 1,545名

パリ・モンマルトルで観光客相手に毎日似顔絵を描く青年サンサ。ある日彼は世界を放浪する旅に出る。ゲリラ撮影を交えた14カ国のあらゆる人々の日常をリアルに描き出している。「トーキョー」にも降り立ち東京の街並みや雑踏、言葉は通じないが暖かな人々との出会いをサンサが受け入れる。



「第7回 文化庁メディア芸術祭」

(平成17年2月25日～3月6日の10日間)

入場者数 7,344名



写真美術館で観る映画シリーズVol.15

「天上草原」

(平成17年3月12日～3月31日の17日間)

入場者数 1,109名

モンゴル高原地帯にある内モンゴル自治区。心に傷を負い、失語症に陥った漢族の少年フーズが訪れた新緑の大自然。そこで暮らす元夫婦の愛情と大地のエネルギーに癒されて、フーズが少しずつ回復していく。懐かしさと憧憬を誘う内モンゴル草原の心暖まる作品。

